



ペンネーム	3児の父
-------	------

【エピソードのタイトル】

金メダル

【エピソードの内容】

私の長男は生まれつき両手足の指の本数が足りていません。その彼が幼稚園最後の運動会でリレーの選手を志願しました。アンカーです。トップでバトンを受取り、勢いよく駆け出しましたが、ゴール手前で追い抜かれてしまいました。裸足にくつを履いて走ったことで、隙間から入った石のために、痛みをこらえながら走っていたようで。でも負けたことの言い訳はせずに、最高の笑顔でした。その日は貰った金メダルを誇らしげに首にかけて帰りました。

1か月後、私は下関海響マラソンのスタートブロックに立ちました。初マラソンです。でも、長男のあの頑張りや笑顔が、僅かな不安を吹き飛ばし勇気を与えてくれていました。多分、あのスタートを待つわくわくした気持ちは、長男と同じだったのではと思います。

そして無事ゴール。私も完走メダルを首にかけて頂くことができました。帰宅して、そのメダルを真っ先に長男の首にかけてやりました。そのときの長男の嬉しそうな顔も、初マラソンの忘れられない大切な思い出になりました。

1年後、私は再び海響マラソンのスタートに立ちました。今回は家族全員のメッセージを T シャツの背中に背負って走りました。終始降り続く雨の中、家族に背中を押し続けてもらい、気持ちを切らずに進むことができました。そしてもうじきゴールというところで、「お父さん！」という声。沿道に家族がいました。出かけるときには何も言っていなかったのに。思いがけないサプライズに最後の力を貰いました。

そして2つめの完走メダル。ちゃんと次男の分も貰うことができました。長男と次男で交互にメダルをかけあう姿を眺めながら、電車で揺られて帰りました。

今年で3度目の挑戦です。この完走メダルはお姉ちゃんの分。これで子供達全員に渡すことができます。今年も家族と一緒にゴールを目指します。